【統合分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
在宅看護論演習Ⅰ	１（１５）	３	第１学期	① 山本　緑 ② 磯邉　厚子

目　　標
１．在宅で療養している対象の看護の展開と援助方法について理解する

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．在宅で療養する対象および家族の看護展開 １）看護過程の展開：脳血管障害のある療養者の看護 ①日常生活の援助が必要な療養者の看護 ・移動、排泄、清潔、胃瘻	講義 演習	担当者① 6時間
2	2	・グループワーク（アセスメント・問題抽出・看護計画立案）	演習	①
3	2	・グループワーク（アセスメント・問題抽出・看護計画立案）発表 ②独居生活が困難な療養者の看護	演習 講義	①
4	2	２）終末期にある療養者および家族の看護 ①在宅ターミナルケアとは ②時期（訪問導入期・安定期・不安定期・死亡直前期・死亡後）に応じた訪問看護	講義	担当者② 8時間
5	2	③家族看護 ・デスエディユケーション ・グリーフケア	講義	②
6	2	④疼痛緩和・トータルペイン ⑤緩和ケアにおける看護師の役割	講義	②
7	2	・グループワーク（終末期にある療養者の看護）	演習	②
8	1	終講試験		

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト	地域療養を支えるケア　：　メディカ出版 地域療養を支える技術　：　メディカ出版
その他	演習は、概論と基本技術での学習を統合させて、具体的な事例のアセスメントから看護計画立案までを行う 個人ワークやグループワークを行う

【統合分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
在宅看護論演習Ⅱ	１（３０）	３	第１学期	①　宮岡　まさみ ②　森口　昌美 ③　初田　里佳 ④　山本　緑

目　　標
１．在宅で療養している対象の看護の展開と援助方法について理解する

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．看護の継続性 １）地域連携支援センターの役割と機能 ２）退院支援（退院前カンファレンス）	講義	担当者① 4時間
2	2	・グループワーク：事例から退院支援のあり方を考察する	演習	①
3	2	２．在宅で療養する対象および家族の看護の実際 １）在宅で医療処置を必要とする療養者の看護：ＡＬＳ療養者の看護 ①家族への退院支援に関する指導計画 ②家族を含むネットワーク活用の実際　　③レスパイトケア	講義	担当者② 2時間
4	2	④人工呼吸器装着中の患者の看護 ⑤在宅で生活する療養者および家族に対する看護過程の展開（指導場面）	講義	担当者③ 12時間
5	2	・ケアプランの作成 （社会資源の活用・多職種連携）	演習	③
6	2	・ロールプレイング：ケアプランの実施	演習	③
7	2	・ロールプレイング：ケアプランの実施	演習	③
8	2	・ケアプランの評価	演習	③
9	2	２）在宅療養を支える看護 ①訪問看護の特徴　　②訪問看護の実践と記録	講義	③
10	2	３）在宅における認知症高齢者の看護（老々看護） ・グループワーク：アセスメント	講義 演習	担当者④ 11時間
11	2	・グループワーク：社会資源の活用	演習	④
12	2	・グループワーク：訪問看護計画の立案	演習	④
13	2	・ロールプレイング：訪問時の観察、アセスメント、ケア①　(SCENARIO)	演習	④
14	2	・ロールプレイング：訪問時の観察、アセスメント、ケア②　(SCENARIO)	演習	④
15	1	４）在宅における精神障害のある人の看護	講義	④
16	1	終講試験		

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト サブテキスト	地域療養を支えるケア　：　メディカ出版 地域療養を支える技術　：　メディカ出版
その他	演習は、概論と基本技術での学習を統合させて具体的な事例のアセスメントから看護計画立案までを行う 個人ワークやグループワークを行う

【統合分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※看護の統合と実践Ⅱ	１（３０）	３	第１・２学期	① 髙田　幸千子 ② 片岡　佐由美 　苅山　有香 ③ 千賀　智子 ④ 遠藤　真理

目　　標
看護をマネジメントするための基礎的知識および多様な場面における看護を実践するための基礎的能力を身につける

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 看護マネジメント １）看護マネジメントとは ２）チーム医療および他職種との連携	講義	担当者① ２時間 看護部長 髙田幸千子
2	2	３）看護ケア提供システム ①看護体制 ②看護の経済性と効率性	講義	担当者② 8時間 副看護部長 片岡佐由美
3	2	４）リーダーシップとマネジメント ①リーダーシップとは ②メンバーシップとは	講義	② 副看護部長 苅山有香
4	2	③リーダーシップに関する理論 ④マネジメントにおけるリーダーシップ	講義	② 副看護部長 苅山有香
5	2	５）キャリアマネジメント ①看護職のキャリア形成 ②看護職の認定制度 ③専門・認定看護師の養成 ④特定行為研修制度	講義	② 看護部長 髙田幸千子
6	2	６）医療制度 ①医療保険制度 ②診療報酬	講義	担当者③ 2時間
7	2	２．看護ケアマネジメントの実際 １）複数事例を対象とした看護実践 ①複数事例の看護問題の明確化 ②優先順位の判断	講義	担当者④ 17時間
8	2	③複数事例の看護問題の明確化・看護計画　グループワーク	講義 演習	④
9	2	④複数事例の看護問題の明確化・看護計画　発表	講義 演習	④
１０	2	⑤複数事例のケア計画立案（各勤務帯）グループワーク	講義 演習	④
１１	2	⑥複数事例のケア計画立案（各勤務帯）発表 発表の振り返り	講義 演習	④
１２	2	⑦複数事例を対象とした看護のマネジメントの考察　発表 発表の振り返り	講義 演習	④
１３	2	⑧多重課題を対象とした看護のマネジメント　グループワーク	講義 演習	④
１４	2	⑨多重課題を対象とした看護のマネジメント　発表	講義 演習	④
１５	1	⑩多重課題を対象とした看護のマネジメント　振り返り	講義 演習	④
１６	1	終講試験		

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト	看護管理：医学書院
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

【統合分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※看護の統合と実践Ⅲ	１（３０）	３	第１・２学期	① 森重　真弓 ② 益満　茜 ③ 久保田　大樹 佐々木　友香 荒木　美樹 ④ JICA近畿支部

目　　標

１．看護行政における基礎的知識を学ぶ
２．災害時における医療・看護の役割を理解し、支援活動の実際を学ぶ
３．国際社会において諸外国との協調・協同を考えることができる基礎を理解する

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．看護を取り巻く諸制度 １）看護の定義 ２）看護職 ①看護職の定義　②看護職と専門職性　③看護職と法・制度 ④看護職の法的責任	講義	担当者① 8時間
2	2	⑤看護職の職業倫理 ⑥看護職の教育制度 看護実践の教育の場（①保健　②医療　③福祉）	講義	①
3	2	３）医療制度 ①医療保険制度　②医療費支払いシステム　③看護ケアの対価 ④看護政策と制度	講義	①
4	2	２．一度に多くの人が被災する場面の支援活動 １）災害医療	講義	担当者② 4時間
5	2	２）災害の種類と特徴	講義	②
6	2	３）災害看護 ①災害看護の特徴	講義	担当者③ 12時間
7	2	②各期における要援護者への看護 急性期、亜急性期、慢性期における要援護者への看護	講義	③
8	2	③被災者のニーズと看護者の対応 子ども、妊産婦、高齢者、障害者、精神障害者、慢性疾患患者、 外国人などの要援護者への看護などの要援護者への看護	講義	③
9	2	④災害で必要な看護技術（演習）　応急処置	演習	③
１０	2	⑤災害で必要な看護技術（演習）トリアージ	演習	③
１１	2	⑥災害で必要な看護技術（演習）トリアージ	演習	③
１２	2	３．国際協力 １）世界の健康問題の現状 ２）医療・看護の国際協力とその仕組み ３）国際医療・看護活動の展開	講義	担当者④ 6時間
１３	2	４．看護師としての国際協力① １）諸外国の医療・看護の現状 ２）所外交との協力 ３）文化・宗教を考慮した看護	講義	④
１４	2	５．看護師としての国際協力② １）諸外国の医療・看護の現状 ２）所外交との協力 ３）文化・宗教を考慮した看護	講義	④
１５	1	まとめ	講義	①
１６	1	終講試験		①

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト	看護管理　：医学書院 災害看護学・国際看護学　：医学書院
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

【統合分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※看護の統合と実践Ⅳ	１（３０）	３	第１・２学期	太田　恵子

目　　標
複合的な事象において看護の知識を統合し活用できる看護実践能力を身につける

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 事例の状況に応じた知識の統合と看護の実践 １）呼吸困難を訴える事例を通して考える看護の実際　１ 事例の情報収集と整理　（SCENARIO）	講義	
2	2	事例を通して考える看護の実際 フィジカルアセスメント	講義 演習	
3	2	事例を通して考える看護の実際 観察と対応１	演習	
4	2	事例を通して考える看護の実際 観察と対応２	演習	
5	2	２）倦怠感を訴える事例を通して考える看護の実際　２ 事例の情報収集と整理　（SCENARIO）	講義	
6	2	事例を通して考える看護の実際 フィジカルアセスメント	講義	
7	2	事例を通して考える看護の実際 観察と対応１	演習	
8	1	事例を通して考える看護の実際 観察と対応２	演習	
9	2	３）痛みを訴える事例を通して考える看護の実際　３ 事例の情報収集と整理　（SCENARIO）	講義	
10	2	事例を通して考える看護の実際 フィジカルアセスメント	講義 演習	
11	2	事例を通して考える看護の実際 観察と対応１	演習	
12	2	事例を通して考える看護の実際 観察と対応２	演習	
13	2	事例を通して考える看護の実際 観察と対応２	演習	
14	2	事例を通して考える看護の実際 観察と対応２	演習	
15	1	事例を通して考える看護の実際	演習	
16	1	終講試験		

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 60点　技術試験(OSCE)　40点 （筆記試験、技術試験それぞれの６割以上を合格とする） 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ：医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　：　医学書院 フィジカルアセスメントが見える：メディックメディア 看護過程に沿った対症看護：学研
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である